

平成 26 年度 シラバス	学年・期間・区分	2 年次 ・ 前期 ・ 選択		
	対象学科・専攻	土木工学専攻		
都市計画演習 (Practice of City Planning)	担当教員	内田 一平 (Uchida, Ippei)		
	教員室	都市環境デザイン工学科棟 2 階 (TEL : 42-9117)		
	E-Mail	uchida@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態/単位の種別/単位数	演習 (PBL) / —— / 1 単位			
週あたりの学習時間と回数	[授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)] × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
<p>[本科目の目標] 身近な環境のなかで具体的に計画対象地域 (霧島市の一部 (旧国分市または旧隼人町) を設定し, 環境, 構造, 計画に関する理論を基礎に社会的・地理的・空間的・歴史的な観点から調査し, 地域の特質と問題点を分析した上で, その地域にふさわしい将来計画をまとめ, 設計図書やコンピュータ画像として完成させ表現させる。本演習は, 主に計画の基礎となる調査・解析手法の修得と論理的思考の鍛錬およびプレゼンテーション能力の向上を目的とする。</p>				
<p>[本科目の位置付け] 都市計画演習は, 都市計画 (本科 4 年次開講) および都市計画特論および都市環境に関連する分野の講義科目で修得した内容を総合化することを目標としている。また, 本科目はグループによるマスタープランの擬似的策定過程を体験することから PBL としての要素を含む。</p>				
<p>[学習上の留意点] 毎回, 時間の初めにその日にやることの方針等を議論し, 時間の終わりに成果のチェックを行う。演習で用いる基礎資料および基礎データは年度当初に予め教官側で用意しておくが, 調査内容により諸君に現地踏査や資料収集をしてもらう機会が出てくると思われるので, そのときは十分に注意し行動すること。また, 調査に必要なデジタルカメラ, ボイスレコーダなど機器および基礎資料は担当教員側で用意する。</p>				
[授業の内容]				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. イントロダクション	2	<input type="checkbox"/> 演習課題を十分理解し対象地域の選択をする。 <input type="checkbox"/> マスタープラン立案にあたって, 必要作業工程を立案できる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	講義終了時に次週の内容説明を行うが, それを受けて作業グループ内で作業打ち合わせを行うこと。
2. 各種データの読み込みと分析	10	<input type="checkbox"/> 公の統計データの種類の把握し, 主要な統計に関して内容を説明できる。 <input type="checkbox"/> 各種統計データや書籍などを用いて, 対象地域の都市像を把握できる。 <input type="checkbox"/> 統計処理の方法を適切に使用できる。 <input type="checkbox"/> 対象地域の都市構造(土地利用・都市施設)を把握できる。 ※場合によっては, フィールド調査もすることがある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
3. 都市計画課題の抽出	4	<input type="checkbox"/> 授業項目 2 の結果から都市問題を抽出することができる。 <input type="checkbox"/> KJ 法を用いて, グループ討議ができる。 <input type="checkbox"/> 対象地域のマスタープランにおけるキャッチフレーズを立案できる。 <input type="checkbox"/> 対象地域のマスタープランにおける目標人口が設定できる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
4. 中間発表会	2	<input type="checkbox"/> 授業要目 2~3 の事柄に関してまとめ, 現状都市の抱える都市問題を的確に説明ができ, 加えて 20 年後の都市に対してキャッチフレーズと目標人口について発表することができる。 <input type="checkbox"/> PPT を用いて, 適切にプレゼンテーション資料を作成できる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
5. マスタープランの策定	10	<input type="checkbox"/> 欧米型の報告書作成方法を理解し応用できる。 <input type="checkbox"/> 都市計画マスタープランの策定過程を理解し, 準じた形式で実行できる。 <input type="checkbox"/> 授業項目 4 であげた都市問題とキャッチフレーズとの乖離をうめる, 都市計画的施策を立案できる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
>>> 次頁へつづく >>>				



目標を達成する基準

番号	達成目標	優	良	可	不可
1	統計情報が手できる	都市計画に関わる複数の統計情報を、目的に沿って入手できる	都市計画に関わる統計情報を、目的に沿って入手できる	都市計画に関わる統計情報を複数入手できる	都市計画に関わる統計情報の存在を知らず、入手できない
2	統計処理が実行できる	都市計画基礎調査結果から4つ以上の観点で統計処理を実行できる	都市計画基礎調査結果から2つ以上の観点で統計処理を実行できる	人口・世帯に関わる現状分析および将来推計ができる	統計処理を実装できない
3	都市構造(土地利用・都市施設)を把握できる	都市構造(土地利用・都市施設)のうち、5項目以上の観点で、状況説明ができる	都市構造(土地利用・都市施設)のうち、3項目以上の観点で、状況説明ができる	都市構造(土地利用・都市施設)のうち、1項目以上の観点で、状況説明ができる	都市構造(土地利用・都市施設)を把握できる
4	グループ討議ができる	討議の内容の一部を討議中にまとめることができる	グループ討議に参加し、趣旨に沿いながら他者の発言と関連した発言ができる	KJ法を理解した上で、グループ討議に参加し、趣旨に沿った発言をすることができる	グループ討議に参加することができない
5	グループ討議議題の結果を整理することができる	グループ討議議題の結果を、発言内容を加味し整理し、さらに発展した考察をすることができる	グループ討議議題の結果を、発言内容を加味し整理することができる	グループ討議議題の結果を、議事録形式で整理することができる	グループ討議議題の結果を整理することができない
6	現状都市の抱える都市問題を捉えることができる	論理的に5つ以上の都市問題を抽出することができる	論理的に3つ以上の都市問題を抽出することができる	論理的に1つ以上の都市問題を抽出することができる	論理的に都市問題を抽出することができない
7	問題解決方策を考案することができる	5つ以上の問題解決方策を考案することができる	3つ以上の問題解決方策を考案することができる	1つ以上の問題解決方策を考案することができる	問題解決方策を考案することができない
8	自分の考えを他者に伝達することができる	情報機器を用いて、自分の考えを論理的に整理し、簡単な言葉を用いながら他者に伝達することができる	情報機器を用いて、自分の考えを論理的に整理し、他者に伝達することができる	情報機器を用いて、自分の考えを他者に伝達することができる	自分の考えを他者に伝達することができない
9	欧米型の報告書作成方法を用いて、報告書を作成できる	欧米型の報告書作成方法を理解し、簡潔な報告書を作成できる	欧米型の報告書作成方法を理解し、報告書を作成できる	欧米型の報告書作成方法を理解しているが、報告書を作成できない	欧米型の報告書作成方法を用いて、報告書を作成できない





